

# 20.10.01～06越冬前準備を採す①

10月1日(木)新千歳着

予約便が数週間前に欠航、  
代替便で飛ぶが三人座席の  
真ん中はどの列も空いていた。  
(航空会社、本当に大変)

成虫はほとんど飛ばず、  
「北海道の冬」へ準備中の  
蝶たち探索には絶好の時期。  
北海道の蝶の楽しみ、  
これからも 本番(笑)

とりあえずいつもの美々泊。

翌朝いつもの美々川撮影→



厚真町10/2  
ジャノメチョウ

狙いはジャノメチョウ。 成虫は多く、幼虫の夜間摂食も観察している。  
また、夏にヒメウラナミジャノメの産卵も見ているので、越冬前の幼虫を是非みつけてみたい。

①探し始めるが、シカの食痕が多くて、幼虫の食痕がわからない...  
あきらめず探して...

..と、「?食痕!？」 ↓



②葉を引き寄せると下の方に何か...。ジャノメだ！(11:47)



③3mmほどの一齢幼虫のようだ。  
ジャノメは二か月ほどかけて孵化するので、8月上旬産卵として、孵化後間もない? ↓



厚真町10/2  
ヒメウラナミジャノメ

気を良くして、別の沢に。ここは以前ヒメウラが叢に入り込み産卵。以前何回か若齢を探したが、果たせず...

↓ヒメウラ摂食中に遭遇！三齢か？(14:59)



緑の中に  
割とわかり  
やすかった



←  
斜め切り  
の摂食。

しばらく撮影していると、ゆっくりゆっくり体を曲げ始め(左)、遂に潜ってしまった。(右に尾端が見える) それにしても、超スローな動き...



この後シロオビヒメを探すも敗退。夕食後、道南に

乙部町8/13  
オオミスジ

五時間半でようやく乙部に到着。起床すると雨。朝食後ウジウジしていると小雨に。「よし、行こう！」  
前回、5頭見つけていたので、その後の幼虫を追うのは易しく感じていたが...  
とりあえず前回の幼虫(8/13)を四つ見てみるとこんな感じ(永盛さんのカーテン幼虫も参照してください)



下から見上げて二つも発見！



①

②

③

④

前回の五つを探したが、幼虫は一つも見つからず...。何者かにやられた？自然は厳しい！他の木で探し始め、一時間半？くらいかけてようやく一つ発見。その後全部で四つ発見できた。四者四様、面白かった。



- ①頂芽脇  
(過去の巣が左後ろに)
- ②枝の又(一般的?)
- ③巢中にまだいる  
(枯れた葉は吐糸により  
散らずについでいる)
- ④枝の側芽脇  
(②と同様の位置?)



厚沢部町10/3  
ヒメジャノメ

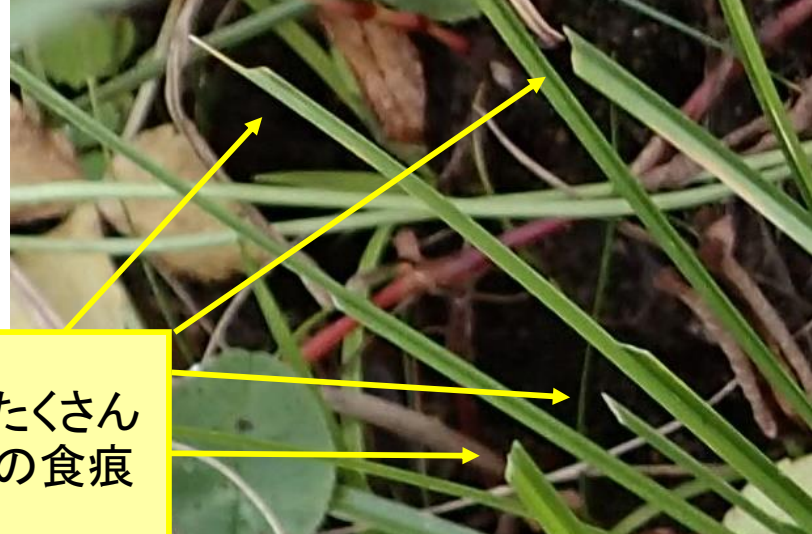
今回のメインターゲット。昨年11月に越冬中の幼虫を一つだけ発見できた。その前の幼虫を是非見たかった。



②現地に着くと、相変わらず水浸し。長靴で少し入ると...。あるある食痕。たくさんある...と、幼虫が即、眼に入った。その後も発見が続き、後に写真で見ると14個体を確認できた。



←↑①前回  
(8/17)の現地  
ぬかるんだ地面  
にイネ科やカヤ  
ツリグサ科が何  
種類も生えてい  
て、ここで何回  
か産卵を見らな  
いことができた(左)。



たくさん  
の食痕

最初の一頭↑

厚沢部町10/3  
ヒメジャノメ

①イネ科・カヤツリグサ科の複数の食草についているのを確認。(同定は仮です)

②心配事:水たまりの食草に産卵・生育の幼虫はどうなる? 実際このような場面も...

i :カサスゲ?

ii :ナガハグサ

iii :ショウジョウスゲ



iv :未同定イネ科



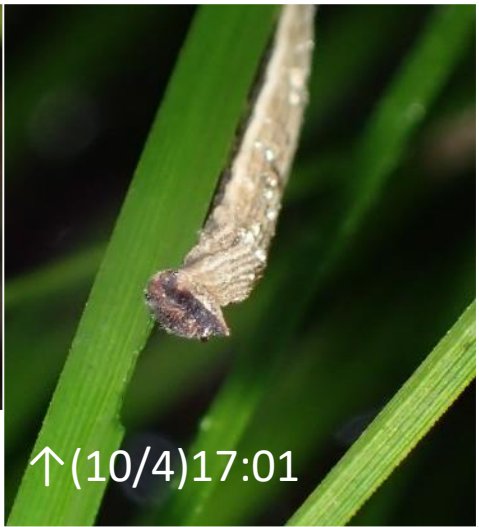
←  
葉はかなり食べられている。  
(隣も)

→  
葉はきれい。  
他の株で、ここまで育ち  
水が引いた時に移動?



厚沢部町10/3  
ヒメジャノメ

①『夜間摂食は？』と、  
夕食後暗くなって再チャレンジ



↑17:57      ↓18:13

↑(10/4)17:01



摂食終了で  
降りてきた？  
とも感じた。  
→→→→→

他にも  
脱糞個体も  
目撃できた。

②夜間摂食は観察できたが、顕著  
とは感じられなかった。  
ただ新たに10個体ほど発見でき、  
活動は活発になるのかも？



③夜間観察中、緑色系の幼虫発見！  
明るいうちの個体は全て褐色系だったので、喜んだ。  
翌日明るいうちに撮影！と、再び訪れ一頭追加。  
結局、緑色幼虫は全部で3個体撮影できた。





上ノ国町10/4  
ミヤマカラスシジミ

江差町のダイヨウセセリを狙ったが、巣さえ見られない。  
早々に引き上げ上ノ国町のミヤマカラスシジミの越冬卵をさがしてみた。



↑江差町: 前回8月はブッシュがあふれていたが、刈り取られ、オニコロもあまり目につかなかった。

どこかにあるのだろうが、これしか発見できないクロウメモドキ↓



手の届く範囲を引き寄せて探してみた。  
三つの卵を発見することができた。  
クロウメモドキは写真で確認できる様に、  
ヒダの多い「短枝」がたくさん伸びていて、そのヒダに埋め込まれるように産卵されているようだ。



道南の二日間調査を終了、千歳方面に戻り、今回の後半戦に入る。